

その3

印刷機器のプレビュー機能等を活用したミスプリントの防止



印刷前にプレビュー機能を活用し、仕上がりの確認を徹底することで用紙使用量の大幅に削減に成功した部局もありました。

想定される効果

2018年度用紙使用量より10%削減すると、年間約2,531,750枚削減することができ、環境保全効果及び約150万円のコスト削減につながります。

2019年度は目標値に対して市ヶ谷91.7%、多摩89%、小金井92.7%と無事に目標を達成しました。



我々が暮らす地球社会においては、用紙の原料を供給する森林資源の減少に伴って生物多様性が喪失するリスクが顕在化しています。

地球環境問題の解決には、一人一人の「行動」の積み重ねが大切です。引き続きご協力お願い致します。

関連するSDGs



法政大学は、「持続可能な地球社会の構築を目指す拠点」としてSDGs(持続可能な開発目標)について重要課題と関連付けて取り組んでいきます。

2020年9月 法政大学環境センター
E-MAIL:ickankyo@hosei.ac.jp

紙資源削減に向けた法政の

掟

その1

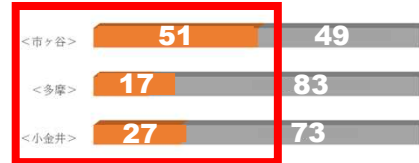
配布資料の電子化、配布部数の適正化

用紙削減の手段としては最も効果大

発行物を電子媒体化した割合 (2019年度)



電子媒体化の実績は、2018年度の市ヶ谷23%、多摩5%、小金井10%より大幅UP!



2020年度目標

コピー・リソ・OA用紙使用量を2017年度実績値以下とする。

その2

裏面活用、両面印刷及び1ページに複数ページを印刷する集約印刷



印刷機器の設定が「面倒」という感覚が「行動バイアス」の代表例として挙げられますが、慣れると便利です。

いずれかの印刷手段で用紙の節約ができるといいな。

